

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390100752		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター岡山東古松		
所在地	岡山県岡山市北区東古松 512-1		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JyvousyoCd=3390100752-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JyvousyoCd=3390100752-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年10月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ニチイケアセンターほほえみのモットー ①笑顔第一 ②家庭的な雰囲気 ③お一人お一人のペースに合わせて ④その人らしさを大切にします 以上をスタッフが心に止め「ほほえみ岡山東古松」では特に家庭的な雰囲気を大切にしながら日々、入居者様が安心して笑顔のある生活を送っていただけるよう支援に努めております。
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は「①入居者全員が興味ある話を聴いたり褒められる事により笑顔であること、②親しみを込めた声掛けをして父母に対するように対応し家庭的な雰囲気であること、③無理強いせず本人に選んでもらい一人一人のペースに合わせる事、④好きな絵手紙や書道、農作業をしてもらいその人らしい生活をする事」をモットーに支援している。親切で優しい対応は家庭的な雰囲気にマッチして家族から感謝の声が聞こえてくる。畑仕事をしていた入居者に事業所の菜園でジャガイモづくりをもらい、経験を活かした作業はその人らしい支援の模範となっている。2か月毎に近隣のカラオケ店にユニット全員で気分転換を兼ねて出かけ、若い頃に唄った曲を職員と一緒に歌い回想に繋がる支援をしている。
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りやホーム会議時に唱和して、理念を共有するようにしている。	企業理念を毎朝唱和することにより共有を図っている。「笑顔が見られ、家庭的であり、本人のペースで、その人らしく」をモットーに、ユニット会議にて具体的に取り組み方を話し合い、実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方との挨拶を大切に、運営推進会議の案内もしている。近のカラオケ店に行き、カラオケを楽しんでいる	積極的に近隣の方と挨拶を交わすなど関係を大切にしている。オカリナや大正琴のボランティアを受け入れて交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学会他催物がある時は「ほほえみだより」他、事業所の情報を載せた案内をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、広く意見を頂くようにしており、お聞きした意見はサービス向上に役立てるよう努めている。	本人が「病院よりホームがいい」との家族からの感謝の言葉や、手作業、畑仕事を楽しんでいるとの声が寄せられている。運動能力の維持、楽しみのある生活をホームが目指していることを報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加をお願いしたり、内容の報告を行うようにしている。また研修等、市からの呼びかけには、積極的に参加している。	行政に運営推進会議出席の案内をし、参加を得ている。事故報告や更新時の手続きをし、集団指導、災害に関する研修に参加して協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については年間の研修計画に位置づけ、理解に努めている。また、身体拘束委員会を設けやむを得ない場合は家族に相談して対処している。	年間研修にて言葉遣い等、拘束に関する具体的な行為について職員は理解し実践している。現在徘徊などの行動は見られず、落ち着いて生活できている。畑仕事やアクティビティ等、活動的に過ごせるよう支援して拘束をしないケアに繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画に位置づけ勉強会を行い、ミーティングでも話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修等に参加して学ぶ機会もあるが、職員にも勉強会で説明できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書で十分に説明し、その後契約を行っている。 法改正時には家族会議を開き、十分な説明を行い納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を受付に設置したり、面会時や運営推進会議に意見や要望をお聞きしている。	入居契約時に運営に関する説明をし意見を聞いている。運営推進会議にて意見を一人一人に聞いている。「ほほえみ便り」を月1回発送し、月の行事予定や写真にて活動の様子を報告し意見を聞く機会を設けている。	家族アンケートを家族の意見と捉え、スタッフ全員で話し合い、改善策を講じられることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のホーム会議、月二回のユニット会議を開き、自分たちの思いや意見、提案を聞く機会を設け反映させている。	管理者と職員は何でも言い易い関係にあり話し合っている。時期を選んで個人面談を行い、意見を聞いている。勉強会に参加して活かせる点をユニットにフィードバックして運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を設け、向上心を持って働けるよう努めている。また、個人面談を行い、思いや悩みを聞き、安心して仕事に集中できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内での研修参加、働きながらの資格取得等を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員が個々に勉強会等に参加し交流を図っている。 管理者・ケアマネ・リーダーに分かれ、毎月拠点との情報交換、交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時、生活状況、生活歴の把握に努め、センター方式を作成し、より深く知ることによって良質の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時、抱えている問題、困っていることを聞き、どのようにケアしていくか充分話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にサービス担当者会議を開き、必要とされる支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食事の盛り付け等を一緒に行うようにすることで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来所された時や電話等、状況報告をこまめに行い、ご家族にも状況把握をして頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に外出・外泊できるようになっている。プライベートに配慮し、居室で面会できるように支援している。	馴染みの近隣のカラオケ店に行き、「青い山脈、支那の夜」などの思い出の曲を歌い、楽しみの時となっている。正月は書初めや神社へ初詣に出掛けている。家族会への参加が多くあり、面会の機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを一緒にしたり、利用者同士が自由に会話できるよう、スタッフがパイプ役になって支援している。席の配置を考慮し孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい入居先へ面会に行ったり、家族からの相談があれば対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が可能な方は希望を伺い、本人の意思に沿って行っている。困難な方には、日常の関わりの中で把握するようにしている。	センター方式による情報収集を詳細に取り、そこから思いや暮らし方の意向を汲み取っている。日常生活の中から状態の変化を捉え把握している。家族や職員からの情報も捉えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用して今までの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来る事を活かし、今までしてきた仕事や趣味などを継続できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月二回のスタッフミーティングで、本人やご家族の思い、希望を共有し、又状況の変化によって生じるサービスについても話し合い、より現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	月1回、担当者会議にてモニタリングを行い、プランの進捗状況を確認している。プランは本人と家族の要望に沿い、健康管理をして穏やかで安定した生活確保を基本としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子がよく解るように本人の発した言葉等、そのまま記している。また、声かけや働きかけによって本人の出来ることを詳しく記している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や買物、カラオケ等本人の要望に応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園に散歩に行ったり外食に出かけたり、ボランティアの受け入れ等を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医が二週間に一度往診に来ており、利用者の日常生活を報告し、また状況変化が起きた時には医師に連絡し、適切な医療を受けられるよう指示を頂いている。	24時間対応できる提携医の往診が2週間に1回ある。白内障の手術を支援している。必要時に訪問歯科の受診(口腔ケア等)がある。看護師による健康チェックを受け、健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者が医療を必要とする時、提携医に連絡すると指示を受けた看護師が対応し、適切な看護が受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の状況を情報提供している。面会時、入院中の様子を聞き、退院時には状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にも説明を行い、重度化した場合の方針を家族に確認し、ホームで出来る事、出来ない事を説明し方針を共有するよう努めている。	入居契約時に重度化に関する対応の説明をしている。医療処置(インシュリン、点滴、胃瘻)がなければ看取りをしている。重度化に備えて特別養護老人ホームの申し込みをしてもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを配備し、事故発生時に備えている。定期的な訓練もしており、AEDの使い方などの講習も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、緊急通報装置は設置済み。年二回、避難訓練を実施している。緊急時の連絡網を作成している。	避難訓練を避難計画に基づき実施している。地震・水害時の避難手順を話し合っている(早めにエレベーターで建物の二階へ上がる)等。災害時用の水、乾パン、α米等の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修の年間計画にも位置づけ利用者一人ひとりに合った対応をし、プライバシーの尊重に努めている。	内部研修にて接遇の理解を得て、対応時の優しい言葉遣いなどに活かされている。無理強いを避け、選択肢を提示して、自己決定を促し、一人一人の人格を尊重するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を提示し、自己決定して頂けるよう支援している。思いを表現できない利用者には、日頃の会話から希望を汲み取り、意志を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、日常のリズムを崩さないよう希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームに美容師に来て頂き、散髪や顔剃り等をお願いしている。 行事の時等はお化粧するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶を入れたり、盛り付け、おはぎ作り、たこ焼き作り等、入居者と一緒になっている。 不定期に、ほほえみ喫茶を開き自分の好きな飲み物やおやつを選んでいる。	ご飯は柔らかめ、味付けは健康を考慮して薄味にしている。おやつも手作りにすることもある。時には「ほほえみ喫茶」を開き、ジュースやコーヒーが提供されて和気あいあいと楽しめる様支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録し、一日の摂取量を把握している。栄養のバランスを考え、量やきざみ、高カロリー食、トロミ等、本人に合うように加減している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に合わせ毎食後の歯磨き、義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握することで、適切な時間に声かけを行うようにしている。	トイレの扉には「トイレ」と大きく表示して自立を促している。トイレ内には手順や説明を記した紙が貼ってあり、混乱しないよう配慮している。水分チェック、乳酸菌飲料摂取に努め、体調管理をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分チェック表を作成し、排泄・水分管理を行っている。 また、レクリエーションで体操を取り入れ体を動かすように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午後であり、バイタルチェック。男性職員に拒否のある人は女性職員が介助する等して、本人の希望を聞きながら対応している。	週2回の入浴となっている。入浴の意思確認をして誘導している。拒否時「めんどくさい」と言われる入居者には、言葉かけを工夫するか、次の日にと約束している。入浴困難者には清拭をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の希望に合わせて、居室での休憩時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書のファイルを作成し、解るように徹底している。服薬時は本人に手渡し、服薬確認をしている。処方変更があれば全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞紙たたみや、洗濯物たたみ等のお手伝いや散歩、カラオケ等のレクリエーションを実施して、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体行事でお花見、紅葉狩り、外食に出かけている。家族が、お墓参り、外食に連れて行ってくださる方もいる。	ドライブを兼ね、渋川の水族館へ出かけている。家族と一緒に外食や、墓参りに出掛けている。近隣のカラオケ店へ2か月に1回、ユニット全員で気分転換を兼ねて出掛け、懐かしの歌を楽しんでいる。	庭やベランダに出て、外気浴を兼ね少しの時間過ごす期待を作って欲しい。玉野のホテルにバイキングに行く予定が実現することを期待する。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお預かりしたお小遣い帳の中から、私用に使っている。時には外出するとき手渡し、好きな物を買って頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は、本人の要望があった時は取り次ぐことで対応している。ハガキは書いてもらっている。ご家族様よりの手紙も来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は衛生面に気をつけ、明るくするよう心がけている。 花や絵を飾ったりして季節を感じるよう、居心地よく暮らせるよう工夫している。	玄関先には菊の鉢植え等を並べ外出帰りの入居者や来訪者を気持ちよく迎えてくれる。リビングには日、曜日が分かる様、大きな手作りや日めくりを掲げ見当識への支援をしている。玄関には空き容器で手作りの花瓶を作り、菊や花を活けて飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の席は各自決まっているが、レクリエーション時には席を替わったりして、それぞれ思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時、馴染みの物を持って来てくれるようお願いしている。	居室前には表札を掲げ、他人の部屋との区別をしている。時計やカレンダーを配置して見当識の支援をしている。テレビ、誕生日のコメント入り色紙、写真、自分の作品を飾り、部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に表札をつけ、本人が自分の部屋だとわかるようにしている。 トイレやお風呂もわかり易くしている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100752		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター岡山東古松		
所在地	岡山県岡山市北区東古松 512-1		
自己評価作成日	平成29年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyousyoCd=3390100752-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyousyoCd=3390100752-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ニチイケアセンターほほえみのモットー ①笑顔第一 ②家庭的な雰囲気 ③お一人お一人のペースに合わせて ④その人らしさを大切にします 以上をスタッフが心に止め「ほほえみ岡山東古松」では特に家庭的な雰囲気を大切にしながら日々、入居者様が安心して笑顔のある生活を送っていただけるよう支援に努めております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りやホーム会議時に唱和して、理念を共有するようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方との挨拶を大切に、運営推進会議の案内もしている。近くのカラオケ店に行き、カラオケを楽しんでいる		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学会他催物がある時は「ほほえみだより」他、事業所の情報を載せた案内をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、広く意見を頂くようにしており、お聞きした意見はサービス向上に役立てるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加をお願いしたり、内容の報告を行うようにしている。また研修等、市からの呼びかけには、積極的に参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については年間の研修計画に位置づけ、理解に努めている。また、身体拘束委員会を設けやむを得ない場合は家族に相談して対処している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間研修計画に位置づけ勉強会を行い、ミーティングでも話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修等に参加して学ぶ機会もあるが、職員にも勉強会で説明できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書で十分に説明し、その後契約を行っている。 法改正時には家族会議を開き、十分な説明を行い納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を受付に設置したり、面会時や運営推進会議に意見や要望をお聞きしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のホーム会議、月二回のユニット会議を開き、自分たちの思いや意見、提案を聞く機会を設け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を設け、向上心を持って働けるよう努めている。また、個人面談を行い、思いや悩みを聞き、安心して仕事に集中できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内での研修参加、働きながらの資格取得等を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員が個々に勉強会等に参加し交流を図っている。 管理者・ケアマネ・リーダーに分かれ、毎月拠点との情報交換、交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時、生活状況、生活歴の把握に努め、センター方式を作成し、より深く知ることによって良質の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時、抱えている問題、困っていることを聞き、どのようにケアしていくか充分話し合うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にサービス担当者会議を開き、必要とされる支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、食事の盛り付け等を一緒に行うようにすることで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来所された時や電話等、状況報告をこまめに行い、ご家族にも状況把握をして頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に外出・外泊できるようになっている。プライベートに配慮し、居室で面会できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションを一緒にしたり、利用者同士が自由に会話できるよう、スタッフがパイプ役になって支援している。席の配置を考慮し孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい入居先へ面会に行ったり、家族からの相談があれば対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が可能な方は希望を伺い、本人の意思に沿って行っている。困難な方には、日常の関わりの中で把握するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用して今までの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来る事を活かし、今までしてきた仕事や趣味などを継続できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月二回のスタッフミーティングで、本人やご家族の思い、希望を共有し、又状況の変化によって生じるサービスについても話し合い、より現状に即した介護計画を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子がよく解るように本人の発した言葉等、そのまま記している。また、声かけや働きかけによって本人の出来ることを詳しく記している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や買物、カラオケ等本人の要望に応じた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園に散歩に行ったり外食に出かけたり、ボランティアの受け入れ等を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医が二週間に一度往診に来ており、利用者の日常生活を報告し、また状況変化が起きた時には医師に連絡し、適切な医療を受けられるよう指示を頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者が医療を必要とする時、提携医に連絡すると指示を受けた看護師が対応し、適切な看護を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者の状況を情報提供している。面会時、入院中の様子を聞き、退院時には状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時にも説明を行い、重度化した場合の方針を家族に確認し、ホームで出来る事、出来ない事を説明し方針を共有するよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを配備し、事故発生時に備えている。 定期的な訓練もしており、AEDの使い方などの講習も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー、緊急通報装置は設置済み。 年二回、避難訓練を実施している。 緊急時の連絡網を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修の年間計画にも位置づけ利用者一人ひとりに合った対応をし、プライバシーの尊重に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を提示し、自己決定して頂けるよう支援している。思いを表現できない利用者には、日頃の会話から希望を汲み取り、意志を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、日常のリズムを崩さないよう希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホームに美容師に来て頂き、散髪や顔剃り等をお願いしている。 行事の時等はお化粧するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶を入れたり、盛り付け、おはぎ作り、たこ焼き作り等、入居者と一緒をしている。 不定期に、ほほえみ喫茶を開き自分の好きな飲み物やおやつを選んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録し、一日の摂取量を把握している。栄養のバランスを考え、量やきざみ、高カロリー食、トロミ等、本人に合うように加減している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に合わせ毎食後の歯磨き、義歯の洗浄を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握することで、適切な時間に声かけを行うようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄・水分チェック表を作成し、排泄・水分管理を行っている。 また、レクリエーションで体操を取り入れ体を動かすように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日午後であり、バイタルチェック。男性職員に拒否のある人は女性職員が介助する等して、本人の希望を聞きながら対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の希望に合わせて、居室での休憩時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書のファイルを作成し、解るように徹底している。服薬時は本人に手渡し、服薬確認をしている。処方変更があれば全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞紙たたみや、洗濯物たたみ等のお手伝いや散歩、カラオケ等のレクリエーションを実施して、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全体行事でお花見、紅葉狩り、外出に出かけている。家族が、お墓参り、外出に連れて行ってくださる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお預かりしたお小遣い帳の中から、私用に使っている。時には外出するとき手渡し、好きな物を買って頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は、本人の要望があった時は取り次ぐことで対応している。ハガキは書いてもらっている。ご家族様よりの手紙も来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は衛生面に気をつけ、明るくするよう心がけている。 花や絵を飾ったりして季節を感じるよう、居心地よく暮らせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の席は各自決まっているが、レクリエーション時には席を替わったりして、それぞれ思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時、馴染みの物を持って来てくれるようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に表札をつけ、本人が自分の部屋だとわかるようにしている。 トイレやお風呂もわかり易くしている。		